

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第25回

---

<タイトル>

「儲けのみ求めるなら物流業界を止めた方が良い」

<本文>

物流業の経営利益率は優良企業で七%前後、一握りの超優良企業で一〇%強。黒字企業の大半は一三%と、その利益率は全体的に低い。このほかの多くは赤字企業である。

例えば、あるコンビニエンス大手は経常利益二五%、上場優良製造メーカー、部品メーカーで三〇%を超えるといった企業があるが、物流業界にはそんな会社は皆無である。儲かる商売かといえれば決してそうではない。むしろ、労多くして実り少なくての商売であろう。

事故の対応、対策、就労環境と長時間労働、また、これらの管理など一般産業と単純に比べられるものではないが、ハードかつ儲からない商売である。しかし我々なくして新鮮な肉や魚、野菜やイタリアのワインも飲めない。反対に猛暑でも自動販売機で冷たいジュースが買えるし、引っ越しも簡単にできる、便利になった。我々は経済活動を支える基盤産業としてなくてはならない黒子なのである。

こういった社会に対する影響力や貢献する手応えと喜び、または乗務員の成長に対するやりがいなど、我々が「当たり前」の崇高な存在であることを、将来のビジョンや夢、荷主へのサービス、従業員の幸せなどに転化できなければ、つまらない商売かもしれない。

社長！ こんな儲からない商売をなぜ続けているのですか？ いや続けていける原動力は何ですか。もしこの質問に答えが出なければ、はじめは大義名分で良いですから会社の儲けには代えられない原動力を創りませんか。